

(一般)

新しい「知」を創り出す子どもの育成 ～思考ツールを活用した探究活動～

大阪市立鷺洲小学校 小島知代 荒木聖 濱本大輔

1. 研究主題設定の理由

本校の児童の実態として、「課題に対して受け身である」「自ら試行錯誤して、解を求めようとしない」ことが挙げられた。これらのことをふまえ、めざす子ども像を、

「課題に対する自分の考えを持ち、主体的・協働的に問題解決ができる子ども」

と設定した。学習を通して獲得した知識や技能を使って、自分の力で課題解決に取り組み、友だちと意見を交流し合って、よりよい答えを出してほしいと考えたからである。そこで平成27年度の研究をふまえ、

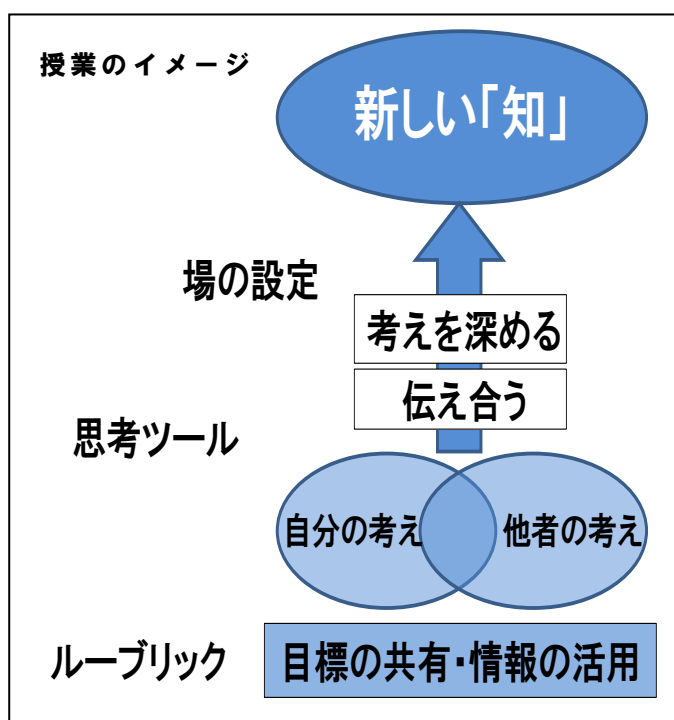
『新しい「知」を創り出す子どもの育成～思考ツールを活用した探究活動～』

と設定した。

2. 新しい「知」をめざして

これまでの授業でも、「本時の学習で取り組むめあて」を提示してきたが、具体的に何をしたらよいのかが分かりにくい示し方であった。そこで、右図のようなイメージで授業を進めることにした。まず、めあてを達成するために、どのように活動ができればよいかを指導者と児童がしっかり共有する。その後、自分の考えと友だちの考えを交流したり、伝え合ったりして考えを深める。そうすることで、さらに、よりよい考えを導き出す。これが「新しい知」につながるのではないかと考えた。

この授業の流れの中で、目標を共有するときに**ルーブリック**を設定し、自分の考えを持ったり、深めたりするときに**思考ツール**を使い、交流の場を工夫した。



3. 思考ツールの活用について

思考ツールを活用するにあたり、本校では、「思考する」「考える」とはどんなことなのかを明らかにしていくことにした。「考える」という行為には、いろいろな方法がある。比較する、分類する、多面的に見る、順序づけるなど。学習のめあてを達成させるためには、それらを指導者と児童が、より具体的な言葉で共有する必要がある。そのときに考えるための技が明らかになる。それが「思考スキル」である。

例えば、「比較しなさい」という指示には、「共通点や相違点を見つけなさい」という意図が含まれている。これを指導者と児童の間でしっかり共有して学習に取り組むようにした。この学習を毎時間行うことで、思考スキルを習得することをねらいとした。

習得した思考スキルをより活用できるのが、思考ツールである。例えば、先に例に挙げた「比較する」思考スキルで使うにはベン図が有効である。他にも、「考えを構築する」とときにはピラミッドチャート、「多面的に物事を分析する」とときにはフィッシュボーンを使用する。他の思考ツールも思考スキルと整合して指導してきた。

思考ツールを活用する利点として、頭の中にあるイメージを書き出して、自分の考えを可視化できることがある。また、友だちとの交流にも活用することにも効果的である。

4. ルーブリックの設定について

ルーブリックとは、学習のめあてに対して、「何を」「どのように」「どうするか」など、どこまで到達したらよいかという具体的な評価規準（到達目標）であり、評価を行うためのものさしである。

授業の導入段階で、本時のめあて（活動のねらい）をつかませる際、何ができたら「できた」と判断するのか、どのように考えてめあてを達成できるのかを指導者と児童の間で共有するために活用します。本校では、ルーブリックの到達レベルを、

A：十分満足できる、めあてを達成している

S：めあて以上に、何かプラスαが見られる

の2段階で設定した。作成において大切なことは、誰が見ても評価が一致するようにすることである。そのために、学年に応じて児童に問いかけたり、話し合ったりしてより具体的な達成状況を示すようにした。また、ルーブリックを設定したことで、1時間の授業でつけたい力を明確にし、それに向かって主体的に学習することができた。

5. 研究の成果と残された課題

（1）研究の成果

- 思考ツールの活用によって、児童は、「何を考えたらいいか、どのように考えたらいいか」ということを明確に持ちながら学習に取り組むことができた。
- ルーブリックを設定することによって、めあてに沿って到達目標を共有し、本時は何をすればよいか、という具体的な活動を指導者と児童がイメージすることができた。
- 意見を交流する場面を意図的に設定することで、児童は他者の意見を取り入れたり、自分の考えを練り上げたりすることができた。

（2）残された課題

- 思考ツールの使い方について、例えば分類する、比較する、多面的に見るなどの授業で伸ばしたい思考スキルと、使用した思考ツールに整合性があったのか、より検討が必要である。また、思考ツールの使い方や、思考スキルとの組み合わせについて校内での統一・共有がより必要である。
- ルーブリックを共有する場面で、どのように授業を展開し、めあてを共有したらよいか、どのような言葉を用いてルーブリックを設定したらよいかについて、さらに研究を深めていく必要がある。